

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4078000108		
法人名	医療法人 十連病院		
事業所名	グループホームじゅうれん		
所在地	福岡県久留米市三潴町西牟田6557-89 (電話) 0942-65-1555		
自己評価作成日	平成 26 年 10 月 31 日	評価結果確定日	平成 27 年 1 月 29 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは公園の一角にあります。リビングから見える十連公園の景色は、すばらしく地域の皆様の散歩道、憩いの場となっているところでもあります。すばらしい環境の中で鳥のさえずりを聞き四季折々の景色を肌で感じながら散歩コースとして利用しています。地域で過ごしてこられた皆様の今までもこれからも自分らしく【あるがままの生き方】を支援するという理念を大切に支援しています。母体が医療法人ということもあり医療連携のサポートも安心できます。職員も母体の内部研修、また外部研修にも参加しスキルアップに努めています。認知症対応型通所介護（共用型）も開設しています。住み替えのダメージも少なく馴染みの関係を作りながら住まいは変わっても地域で暮らす事を大切に地域に根差したホームをめざし取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------------------

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	平成 26 年 12 月 3 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

緩やかな坂を上ると、自然豊かな環境の中にペンションを思わせる明るい黄色の事業所がある。母体法人の病院を中心に、同敷地内にデイケアなど関連福祉施設が点在している。居室から眺める自然の立木も心地良い。理念の「あるがままの暮らしを」と、全職員が具体的なケアについて意見の統一を図り、共有空間では居心地良く過ごしている。母体病院の支援体制もあり、医療面でも家族の信頼・安心に繋がっている。事業所イベントには、地域住民に積極的に呼びかけ、地域の人たちと交流することに努めている。

項目番号		項 目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【 I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域の皆様とあるがままの暮らしを」理念とし、地域社会の一員として地域のなかで暮らしていることを認識し、玄関先に理念をあげ実践にむけて努力している。	地域密着型の視点を盛り込んだ事業所独自の理念がある。その意義を職員全員で確認し、自宅での生活そのままの延長と捉えて、具体的なケアについて意見の統一を図っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の常時（敬老会、誕生会、清掃）に参加し地域の方へホームの行事などに来て頂くよう呼びかけしている。また中学性の職場体験の受け入れも行き交流を深めている。	自治会に加入しており、清掃活動や公民館で開催される敬老会・尚寿会に参加して、血圧測定や認知症予防など、事例を通して勉強会を行うなど地域交流に努めている。保育園の訪問や中学校の職場体験を受け入れている。9月には、野外コンサートを開き、多くの人を迎え交流を深めている。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	尚寿会の誕生会に参加し認知症予防、血圧測定、健康管理についてのお話をおこなったり、地域の民生委員さんから関わり方、対応についての相談にのったり、運営推進会議時に参加していただいた方で事例を通して勉強会を行っている。	/	/
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、小規模と一緒に開催し、市役所、行政、民生委員、家族が参加されている。活動状況等を資料にまとめ報告し、日頃の様子をスライドショーで流しご意見を頂いてよりよいサービスが提供出来るようにしている。	運営推進会議は、定期的に隣接の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で開催している。事業所は利用者やサービスの実際をスライドショーで紹介し、委員からは地域老人の現状報告のほか、消防訓練や成年後見制度などの勉強会の場にもなっている。会議での意見をサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市職員、包括センターの方に参加して頂き最新の情報を頂いたりホームから相談したり、実情を伝えたりしながら協力関係を築いている。	行政担当者にサービスや運営などについて日頃から報告・相談をし、意見や助言をもらうなど連携を図っている。また、市主催の勉強会に参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとし基本は開錠している。玄関は、近くに池があるので安全の為、自動ドアを利用している。外部研修に参加し伝達を行い、拘束について学ぶ機会を設けている。	身体拘束に関するマニュアルを整備し、身体拘束委員会を設置している、全職員は身体拘束に関する内部・外部研修に参加し、テキスト・研修記録がある。拘束の弊害を認識し、拘束しないケアに取り組んでいる。入浴時身体観察を行っている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し伝達を行い虐待について学ぶ機会を設けている。入浴時などに身体観察を行い虐待の早期発見に努めている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内にパンフレットを用意したり、運営推進会議においても説明したりしている。内部、外部研修にも参加し全職員が学ぶ機会を作っている。	職員は、内部・外部研修に参加し、制度について学ぶ機会があり、伝達研修も行っている。テキスト・研修記録・報告書などがある。利用者・家族などへは、契約時に制度について説明している。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族に対しては入居時の契約で詳細に説明している。改定時は、家族会で説明し同意をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には常に意見を聞くようにしている。家族には面会時や家族会で問いかけている。玄関入口に、御意見箱を設置している。	利用者からは日常会話の中で思いや意見を引き出し、家族からは訪問時や家族会等で問いかけている。「外食に行きたい」など要望には運営に反映させている。月1回、久留米市介護相談員の訪問を受け入れている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会、朝礼時において、自由に意見を出し合う環境作りに努めている。	管理者は、日常的に職員の意見や相談等を気軽に話せる雰囲気づくりに努めている。また管理者は、第3水曜日に開催している勉強会で、意見を聴く機会を設けている。職員の希望を考慮した勤務体制を整え、運営に反映させている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、資格（介護福祉士）を取ったり、外部研修に行きたいと向上心を持っている。結婚、出産後も働けるように職場環境を整え働きやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては、制限は行っていない。面接時にご本人の介護に対する思いを採用条件にしている。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境作りを行っている。得意分野が発揮でき生き生きと勤務出来る様支援している。	職員の採用にあたっては適性を考慮し、性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また本人の能力が発揮できる職場環境を目指している。勤務時間や子育て支援にも配慮がある。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人において人権学習の研修が開催され意識づけが行われている。また、外部研修にも出席し職員全員の意識づけが行われている。	代表者は、利用者に対する人権の尊重を重んじ、法人内で人権教育を行い、法人全体で人権の啓発活動に取り組んでいる。一部職員が外部研修を受講し、伝達研修をしている。テキスト、研修記録がある。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など必要に応じ参加を勧めている。働きながら資格が取れる様に、また、研修が受けれるように機会を作っている。ほとんどの職員が資格（介護福祉士）保持者である。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会や福岡県グループホーム協議会に加盟し、研修会や情報交換を行っている。交流の深い同業者もあり、お互いに訪問や相談したりサービスの向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学や申込みの段階から本人の状態を把握するよう努めている。また、ケアマネから情報収集を行い、本人の求めていることや不安を理解するように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とよく話し合い、不安なこと、困っていることを聞いている。家族が悩みを話せる様な雰囲気、関係作りにも努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との要望、意見をしっかりと聞いている。その際に生活歴や趣味等を聞きアセスメントし、話し合いをして、そこで関わり方に必要としている支援を出し合っている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる事を一緒にし、満足感、充実感、存在感を持って頂きながら信頼関係を得ている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回ホーム便りを通して生活状況を伝えている。面会時には日頃の様子をお伝えしている。家族と共に楽しめる様に運動会を開催したり、日頃の状況をスライドショーでお見せしたり、御家族で楽しいひと時を過ごせる様に、家族との絆を絶やさないように支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自由に面会、外出、外泊をしていただいている。面会も御姉妹、親戚、お弟子さん等多岐の方に来て頂いている。	管理者・職員は、利用者の馴染みの人や場について、利用者・家族から聴取し把握している。地域に暮らす馴染みの知人・友人・親戚の人が訪ねて見えたり、「自宅に帰ってみたい」などの利用者の要望を大切に、利用者の馴染みの人や場所との関係が継続できるよう支援に努めている。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	暮らしの中で築いた人間関係を尊重し、仲の良い利用者同士席を近くにしたり配慮しているが、相性や認知レベルの違いで孤立する入居者もあり、職員が常に気を配り調整役になって支援している。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移られた方へは、時々面会に行ったりしている。関係先へは生活状況等情報提供している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に御家族から希望や意向をお聞きし、ご利用者と日々生活しながら把握に努めている。本人の意思を伝えられない方は、表情や動作などで把握し御家族と相談しながら本人の思いを尊重し対応している。	センター方式で本人とその家族から情報を収集し、「その人らしい生活」が送れるよう意向の把握に努めている。意思表示が難しい利用者には、日頃から動作や表情を観察し、記録する事で情報を共有し、全職員が利用者の思いに近づく努力を行い、本人本位に検討している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族より生活歴の情報を頂き、日々の生活の中から確認したり、ケアマネより情報を頂いたりしながら生活支援を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアプラン、申し送りノート等を活用し、心身状態や生活ベースを把握し共有するように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を導入し、入居者からの聞き取り、家族からの聞き取り、意向を取り入れカンファレンスを行ない、現状に即したケアプランとなるよう全員で話し合い配慮している。	本人・家族の思いや意向を聞きながら、医師の意見も取り入れ、3ヶ月毎にモニタリングを行い、6ヶ月毎に個別に介護計画を作成している。本人・家族へ説明し家族から同意の署名・押印を頂いている。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録を記入している。気づきやケアの工夫は申し送りノートに記入して伝達している。また介護計画の見直しの材料にしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、御家族の意向、状況に応じ対応を行っている。医療法人も併設の為、医療連携も万全であり、ご希望により看取りの生活支援にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長、民生委員、保育園等日々の生活の中で交流がある。日々の散歩を通じご近所の方々に気軽に声掛けを頂いている。なお、地域住民の一人として生活しているとの思いで支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設入所時にかかりつけ医について家族と相談しており、希望に応じて、かかりつけ医との連携を行っている。十連病院がかかりつけ医の方は敷地内に担当医がいらしゃるので小さな変化にも往診などですぐに対応できるようになっている。状況により説明をお願いし、本人・家族の意向に沿える医療が受けられるよう支援している。	かかりつけ医は本人や家族の希望により決めている。往診や通院が必要になった時は家族へ連絡し、家族での通院介助が困難な時は職員が対応している。通院や往診の結果は電話にて家族へ報告を行い、情報が共有できるよう努めている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	本人からの訴えや観察を行う中での小さな変化も、看護職員が常勤しているので、常に健康管理や状態変化対応できる体制にあり気軽に相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に書面等で情報交換を行い、職員が面会等を行っている。退院時は事前に職員が病院へ行き情報交換を行い、病院との連携ができるようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、入居時に意向を尋ね、重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く、家族や馴染みのスタッフの中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設病院との協力体制も確立している。	契約時に重度化した場合の指針の説明を行い、看取りと判断された時、再度の説明と家族の意向を確認し、同意を得ている。夜勤者への申し送り時は看護師や医師へ連絡する状態の目安を確認、母体病院との協力体制も整えている。家族・職員も安心して納得した最期を迎えられるよう取り組んでいる。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時に、酸素ボンベや吸引器を常備し、また急変時の対応マニュアルを整備している。法人内での研修（ADL、心肺蘇生法）を定期的に行い、学ぶ機会を設け実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	最低年2回火災を想定した訓練を行ない、地域の方の参加もみられる。非常食、おむつ、ペーパー類の備蓄も整えている。	年2回消防署の協力を得て、夜間を想定した通報・避難・消火訓練を実施している。消防署が出火場所を設定する事で、より実践的な訓練となっている。近隣住民へは案内のチラシを配布し、運営推進会議でも参加を呼びかけている。非常用食品・飲料水・備品等は事業所内のクローゼットに備蓄している。	
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人情報同意書を作成し、家族に個人情報に関する対応について承諾を頂いている。一人ひとりの人格を尊重し、生活歴を踏まえ、自尊心を傷つけない対応声掛けを行なっている。無理強いしない言葉や態度、不愉快にさせない言葉かけなど、特に心がけている。	職員は、利用者の誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応をしないことを心がけ、対応している。年2回内部研修を行い、職員の意識向上に努めている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切にし、本音や希望を言える雰囲気を作る事や安心してスタッフにわがままを言えるような関係作りに努めている。スタッフや家族の意見を押し付けず、本人の意見が決定出来る様に働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の関わりの中で本人の希望に沿った支援が行えるよう心がけている。本人の生活リズムを最優先し、無理強いせず、言葉かけや見守りで利用者のペースに合わせた支援に努め、レク等も必ず本人に声掛けを行い、本人の希望に沿って参加出来るよう支援している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切にし、毎日欠かさずお化粧を続けている方もある。自分で出来なくなった方も家族の思いを大切に、スタッフが化粧をして差し上げている。外出や誕生日等特別な日には、おしゃれをされたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の希望を聞きメニューへ取り入れている。食欲がでる色彩等にも気を使っている。できる方にはテーブル拭き、お茶入れ、食材の皮むきなど手伝って頂いている。	自家菜園で採れた野菜や地域の契約農家から配達された米・野菜を使い、利用者と共に調理し、盛り付けや配膳、下膳を行うなど、利用者個々の力を生かしている。平日頃、旬の果物やバルコニーで育てたハーブなどを料理に添え、食事が楽しみとなるよう工夫し、職員も一緒に食事をしている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた量や病状による食事量、味付け等細やかに対応している。食事、水分摂取量の把握に努め、入りが悪い時には、口に合う別メニューを用意したり、飲み物を用意確保している。嚥下力が低下した方は、ミキサーやトロミで対応する事もある。状況により栄養士にアドバイスを受けることもある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行い、一人ひとりに合わせた見守りや介助を行っている。義歯の方は外して磨くように声かけしたり、汚れが落ちているかチェックを行い、上手に出来ない方は、最後に仕上げを行い清潔保持をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、時間を見てトイレの声かけを行ない、気持ちよい排泄が出来るよう検討している。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、個々に応じた支援を行うことで、自己排便や尿汚染を防ぎ、トイレでの排泄が続けられるよう支援している。利用者の排泄パターンに応じた支援を行い、家族の経費負担の軽減にも繋がっている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は乳製品や野菜、食物繊維類、水分を多く取ったり、適度な運動や散歩したりその人に合った時間帯にトイレに座ることなどにも努める。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	ご利用者の健康状態を鑑みながら入浴支援を行っています。一人ひとり、季節毎に入浴剤、バラ湯、柚子湯を利用したり、ゆっくり入浴して頂き、コミュニケーションをとる良い時間となっています。汚染時など臨機応変に対応しています。	入浴は1日おきを基本としているが、希望すれば毎日入浴できる体制が整っている。入浴を拒む利用者には、本人の好む話題や歌を歌ったり、人を代えたり工夫をしている。湯船に菖蒲や柚子を浮かべる等季節感が味わえ入浴が楽しみとなるよう支援している。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は生活習慣や体力に合わせて、レク、散歩、畑作業などをして過ごして頂き夕食後からは就寝へむけての環境作りを心がけ暖かい飲み物の提供やゆっくり話を聞いたりしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員が入居者一人一人の内服している薬を把握できるようにしている。処方の変更があった時は、申し送りノートで周知し状態観察をしている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に情報を頂き料理、裁縫、編み物、畑作業など得意分野で力を発揮できるように場面作りをしている。外出、ドライブ、散歩にて気分転換している。お茶は、本人希望でコーヒー、紅茶、緑茶などセレクト提供している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近隣の公園へ、季節を楽しめるよう外出を行なっている。本人希望にて買い物支援も行っていて、顔なじみの方から花など頂くこともある。	天気や利用者の体調や希望に応じて、隣接する公園へ出かけ、五感刺激が得られるよう積極的に支援している。また、家族の協力を得て、これまで住んでいた自宅へ弁当持って帰宅してみる、等といった個別的な外出支援も行っている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持ちたいと希望される方は、居室にて自己管理をして頂いている。バスハイク、外食時には、自分で支払いをされている。買物の希望があれば、個別に対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に使用でき、手紙も書かれている方もいる。（暑中見舞い、年賀状など）ホーム便りにて近況報告をおこなっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには、花や季節に合わせた入居者様の作品を飾り季節感を感じられるようにしている。バルコニーにも季節が感じられるように花を栽培している。リビングの温度等は入居者の方に聞きながら細目に調節している。	食堂兼リビングは南に面しており、天窗からの採光も多く明るい。夏期はゴーヤによる緑のカーテンやよしずで採光を調整し、居心地の良い環境作りに努めている。いつでもバルコニーへ出る事ができ解放感がある。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者様のADLや人間関係に合わせ、テーブルの配置を考慮したり、廊下にソファを置いたりしゆっくり過ごせる場所作りをし状況をみている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族との要望、意見をしっかりと聞き、馴染みの使い慣れた物を置き居心地のよい空間作りを心がけている。また入居者が安全に過ごせるよう整理整頓に気をつけている。	居室には家族の写真が飾られ、仏壇や筆筒、ソファ、馴染みの小物が持ち込まれ、それぞれの個性が感じ取れる居室づくりになっている。歩行が不安定な方には、筆筒や椅子の配置で掴まりやすく移動できるよう安全面に配慮した工夫がなされている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様のADLの変化に合わせ都度必要な時は家族に相談し、また職員と話し合い暮らしやすい環境づくりに努めている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2／3くらいと
				③ 家族の1／3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2／3くらいが
				③ 職員の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2／3くらいが
				③ 利用者の1／3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2／3くらいが
				③ 家族等の1／3くらいが
				④ ほとんどいない

項目番号		項 目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	当事業所は、【地域の皆様とあるがままの暮らしを】という介護理念のもと職員で日々振り返り意識しながら実践に向け努力している。地域・家族との関係を大切にしている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会に加入し掃除、祭り又敬老会、誕生会にご招待いただいたり、運営推進会議にも地域の自治会長や民生委員、尚寿会からも参加いただき交流を図っている。散歩時にも地域の方々との挨拶を交わしさりげない交流がある。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	尚寿会の誕生会に参加し認知症予防、血圧測定、健康管理についてのお話をおこなったり、地域の民生委員さんから関わり方、対応についての相談にのったり、事例を紹介したりしている。学生の体験学習やボランティアの受け入れも積極的に行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度、小規模と合同で自治会、民生委員、尚寿会、包括支援センター、行政職員を交え委員を務めて頂き事業所の活動状況や日々の様子をスライドショーでご紹介し御意見やアドバイスを頂きながらサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への依頼や事業所の実情を説明しどのような対応が良いのか気軽に相談している。市が行う勉強会には、出席し相談しやすい機会を作っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組み、外部研修にも参加し全職員が拘束について学ぶ機会を作り意識づけしている。マニュアルも準備している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し全職員が学ぶ機会を作っている。日々虐待防止の意識づけを行なっている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用者の中に日常生活自立支援事業を利用されている方もあり関係機関の方と関係があり勉強させていただいている。施設内にパンフレットを用意したり運営推進会議においても説明したりしている。外部研修にも参加し全職員が学ぶ機会を作っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に当たっては、御家族の希望を伺い本人も同行で見学や遊びに来て頂いている。入居時には、契約書、重要事項説明書、医療連携についても説明し納得されているか確認し同意をいただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時に意見や要望が得られるように働きかけている。日頃の様子は、毎月の便りや家族会時には、スライドショーを行ない日々の生活を見て頂きご意見をいただいている。又毎月介護相談員の訪問の受け入れも行ってご意見をいただいたりしている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の勉強会や日々のミーティングで気づきや意見を出し合い自由に検討できる環境作りを行なっている。現場職員の意見や提案は大事にしている。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、資格（介護福祉士）を取ったり外部研修に行きたいと向上心を持っている。結婚、出産後も働けるように職場環境を整え働きやすい環境作りに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生ききとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	採用に当たっては、制限は、行っていない。面接時にご本人の介護に対する思いを採用条件にしている。勤務時間や休みの希望など働きやすい環境作りを行なっている。得意分野が発揮でき生き生きと勤務出来る様支援している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人において人権学習の研修が開催され意識づけが行われている。又外部研修にも出席し職員全員の意識づけが行われている。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修など必要に応じ参加を勧めている。働きながら資格が取れる様に又研修が受けられるように機会を作っている。ほとんどの職員が資格（介護福祉士）保持者である。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	久留米市の事業者協議会や福岡県グループホーム協議会に加盟し研修会や情報交換を行っている。交流の深い同業者もありお互いに訪問や相談したりサービスの向上に努めている。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	御家族ご本人の意向を確認し詳細に情報収集を行ない安心出来る環境を作っている。又二人だけの時間を作り個別対応をし本人の思いをしっかりと聞いてあげる事で馴染みの関係を作るように努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族が希望されている理由や困っている事等しっかりと面談の機会を作り話を聞くことで安心して任せてもらえるように努めている。スタッフ全員で共有しお互い情報交換しながら対応方法も御家族と話し合い信頼関係を作っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、グループホームは、勿論各サービスの説明を行なっている。必要に応じたのグループホームへの見学も勧める事もある。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者と共に生活しているという基本を大事に出来ない部分を手伝うようにしている。得意分野は、腕を振るって頂いたり教えて頂いたり共に支え合う一緒に生活しているという関係に努めている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に一回ホーム便りを通し生活状況を伝えている。面会時には日頃の様子をお伝えしている。家族と共に楽しめる様に運動会を開催したり日頃の状況をスライドショーでお見せしたり御家族で楽しいひと時を過ごせる様に、家族との絆を絶やさないように支援している。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の希望に応じ、自宅に電話したり自宅まで外出したりして、入居前の馴染みの場所まで出かけたりしている。一人暮らしの方は、御家族の了解のもと自宅の鍵を持っている為、自宅に皆さんとお弁当を持って帰り一日過ごされる方もあり今後も大事に支援していきたい。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士、職員も一緒にお茶を飲んだり、皆が穏やかな日々が過ごせる様に支援している。中には、お部屋を訪問し一緒に過ごされる光景も目にする。お互いに助け合われる光景もあり温かく見守っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設事業所や多施設に行かれてもそこでの生活状況を面会に行ったり電話で状態を聞いたりしている。現在でも関係が続いて遊びに来られたり相談に来られるご家庭もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時に御家族から希望や意向をお聞きしご利用者と日々生活しながら把握に努めている。本人の意思を伝えられない方は、表情や動作などで把握し御家族と相談しながら本人の思いを尊重し対応している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に御家族より生活歴の情報を頂き日々の生活の中から確認しながら生活支援を行っている。知人親類等面会時に情報を得られるように声掛けを行ないお話しさせていただいている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態は、個人記録、申し送りノート等で共有できるようにしている。生活の質の向上を目指している為日々の変化の記録を大切にしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	自分らしく生活するという基本を大事に本人、御家族の要望を聞き他職種と検討を行ない意向が反映された介護計画を作成している。介護計画の実施状況の記録を基にカンファレンス、モニタリングを実施している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日々の様子やケアプラン実施状況など記録されている為日々の変化がカンファレンス、モニタリングに生かされより良いケアが提供できるようにしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人、御家族の意向、状況に応じ対応を行っている。医療法人併設の為医療連携も万全であり、ご希望により看取りの生活支援にも取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の自治会長、民生委員、保育園等日々の生活の中で交流がある。日々の散歩を通じご近所の方々に気軽に声掛け頂いている。なお地域住民の一人として生活しているとの思いで支援している。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の往診、受診を行っている。御家族、ご本人の希望により対応し、状況により状態説明をお願いし今後の方向性について選択出来る様に支援している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が常勤しているので常に健康管理や状態変化を報告し対応できる体制にあり気軽に相談している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、情報提供を行ない安心して入院治療が出来る様に支援している。入院時には、訪問し情報交換を行うようにしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には、入居時に意向を尋ね重度化に伴いその都度話し合いを行っている。ホームで最期まで希望される家族も多く、家族や馴染みのスタッフの中で最期を迎えられる方も増えてきている。併設病院との協力体制も確立している。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内での研修やグループホーム勉強会時に心肺蘇生法やAEDの使用法等定期的に学ぶ機会を設け実践力を身に付けている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人独自の地震、水害時の想定したマニュアルがある。又年2回火災を想定した訓練を実施している。運営推進会議時に実施日を前もってお話し参加を依頼している。地域の方々にも声掛けを行なっている。法人又グループホームにおいても非常食、オムツ、ペーパー類の備蓄を行なっている。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し生活歴を踏まえ自尊心を傷つけない対応声掛けを行なっている。無理強いしない言葉、態度不愉快にさせない言葉かけなど特に心がけている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で本人とゆっくり向き合い話をする時間を大切にし本音や希望を言える雰囲気を作る事又安心してスタッフにわがまを言えるような関係作りに努めている。スタッフや家族の意見を押し付けず本人の意見が決定出来る様に働きかけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの意思決定により自由にお過ごしにしている。散歩、ドライブ、買い物、外食又食事、就寝時間も本人のペースに合わせて対応している。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今までの生活習慣を大切に毎日欠かさずお化粧を続けている方もある。自分で出来なくなった方も家族の思いを大切にスタッフがお化粧をして差し上げている。外出や誕生日等と特別な日には、おしゃれをされたりしている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや食事による満足度等定期的に調査しそれをもとに食事内容やメニューを検討している。入居者様と一緒に野菜の皮むきや下ごしらえ、盛り付け、食器洗いなどを行ない作る楽しみを感じられるようにしている。入居者様の希望に沿い外食も取り入れている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせた量や病状による食事量、味付け等細やかに対応している。食事、水分摂取量の把握に努め入りが悪い時には、口に合う別メニューを用意したり飲み物を用意確保している。嚥下力が低下した方は、ミキサーやトロミで対応する事もある。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行ない、一人ひとりに合わせた見守りや介助を行なっている。義歯の方は外して磨くように声掛けしたり汚れが落ちているかチェックを行ない上手に出来ない方は、最後に仕上げを行ない清潔保持をしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握したり本人のサインを見逃さないようトイレ誘導を行う事で失敗やパットの使用を減らせる様努力している。安全を考慮しながら2人介助を行なったり、P-トイレを使用している方もいるがなるべく最後までおむつ着用を避けてトイレでの排泄を支援している。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品や食物繊維の多い食物を取り入れたり水分の確保、適度な運動を心がけたり便秘予防に努めている。毎日の排便状態のチェックを行っている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった入浴の支援をしている	ご利用者の健康状態を鑑みながら入浴支援を行っている。一人ひとり、季節毎に入浴剤、パラ湯、柚子湯を利用したりゆっくり入浴して頂き、コミュニケーションをとる良い時間となっています。汚染時など臨機応変に対応している。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣や体力に合わせ居室で休息したりソファや和室でも自由に横になって休める様に配慮している。夜間の消灯時間も決めておらず一人ひとりのサイクルに合わせて就寝時間も異なりテレビを見たりスタッフと話をしたり自由に過ごされている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に薬情を入れ薬をセッティングするとき毎回確認を行っている。又業務日誌に薬の変更や臨時薬の処方、処置内容などを記載し情報の共有を行なっている。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に生活歴や嗜好品、ニーズ等を聴取し一人ひとりの役割を持ち生きがいのある生活を送れるように努めている。女性利用者が多く長年の主婦業を活かし家事仕事を一緒に行いながら生活感を感じられるようにしている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今日は、何をしたいかを尋ねその希望になるべく沿って対応出来る様に努めている。自宅に帰りたいという希望時には、家族にも協力を得られるように相談したりしている。住み慣れた地域への買い物に出て馴染みの人と会うことを楽しみにしている方もある。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で持ちたいと希望される方は、居室にて自己管理をして頂いている。バスハイク、外食時には、自分で支払いをされている。買物の希望があれば、個別に対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話希望時は、自由にかけて頂き遠方でなかなか面会できない家族には、定期的に電話を依頼し交流を絶やさないようにしている。年賀状や暑中見舞い、便りを送り近況報告を行なっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホールには、季節の花や季節に合わせた入居者様の作品を飾り季節感を感じられるようにしている。バルコニーにも季節が感じられるように花を栽培している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室には、こたつを設置し自由に横に慣れる様な共用空間を作り仲良しの入居者様同士のんびりと過ごせる様にしている。又ソファやテラスにもテーブルや椅子を設置しいつでも利用出来る様にしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた寝具や家具を持ち込んで頂いたり家族の写真や季節の花を飾ったりと好みに応じ自由に居室内をアレンジし居心地良く過ごせる様に配慮している。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全面がバリアフリーとなっており、廊下には、手摺りを設置したり、車椅子自走も安全に行えるように十分なスペースも確保している。トイレも出来るだけ自立した生活が出来様に配慮している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいの
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいの
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	<input type="radio"/>	①毎日ある
			<input type="radio"/>	②数日に1回程度ある
			<input type="radio"/>	③たまにある
			<input type="radio"/>	④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			<input type="radio"/>	②利用者の2／3くらいが
			<input type="radio"/>	③利用者の1／3くらいが
			<input type="radio"/>	④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と
				② 家族の2/3くらいと
				③ 家族の1/3くらいと
				④ ほとんどできていない
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)		① ほぼ毎日のようにある
			○	② 数日に1回程度ある
				③ たまにある
				④ ほとんどない
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		① 大いに増えている
			○	② 少しずつ増えている
				③ あまり増えていない
				④ 全くいない
68	—	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が
				② 職員の2/3くらいが
				③ 職員の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が
				② 利用者の2/3くらいが
				③ 利用者の1/3くらいが
				④ ほとんどいない
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が
				② 家族等の2/3くらいが
				③ 家族等の1/3くらいが
				④ ほとんどいない